

令和6年度 第1回 八千代市学校適正配置検討委員会記録

日 時 令和7年2月5日 17時30分から18時30分

場 所 八千代市大和田138-2 八千代市教育委員会2階大会議室

議 題 1 開会

2 議事

(1) 高津・緑が丘地域における小・中学校について

①緑が丘地区

②高津地区

3 その他

4 閉会

公開又は

非公開の別 公開

出 席 者 <以下敬称略>

大山光晴, 麻生秀樹, 八巻憲一, 落合啓子, 岩瀬浩子, 高橋壯夫

小出正雄, 栗根秀光, 多田知史, 星山司, 長島秀一, 熊谷俊彦

事 務 局 教育次長 高原敬介, 教育総務課長 渡邊久貢, 指導課長 兒玉健司

保健体育課長 宗像洋

傍聴者定員 5名

傍 聴 者 0名

委 員 長 本日, 事前に欠席の連絡をいただいていた2名含め, その他にも欠席が3名おりますが, 委員の出席が過半数に達していれば, 八千代市学校適正配置設置要領の第五条2項の規定により会議が成立いたしますので, 今日の会議は成立ということになります。

ただいまより, 令和6年度1回八千代市学校適正配置検討委員会を開会いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

早速ですが議事に移ります。本日の議題は, 高津・緑が丘地域における小中学校についてとなっております。事務局からご説明をまずお願いいたします。

学務課員 説明の前に資料の確認をさせていただきます。

まず資料1として, 昨年度の本委員会でも見ていただきました, A3横の「各地区における学校の現状及び今後の状況について」になります。昨年度のものに, 令和12年度の部分を新しく加筆したものになります。

続きまして資料2, A4縦の「八千代市立小中学校の学校適正配置の基本的

な考え方について答申（一部抜粋）」になります。

これらの資料は、後程協議の際の参考としてお使いいただければと存じます。資料は以上となります。

それでは、「高津・緑が丘地域における小中学校について」、改めて現在どのような状況にあるかを確認させていただきます。画面をご覧ください。

まず初めに、「1、緑が丘地区の学校」です。小学校は新木戸小学校、みどりが丘小学校の2校です。この地区に中学校はありません。

「2、高津地区の学校」に移ります。小学校は、西高津小学校、高津小学校、そして、南高津小学校の3校があります。そして、中学校は高津中学校と東高津中学校の2校があります。

まず、緑が丘地区の小学校について詳しく説明します。令和6年5月時点の新木戸小学校とみどりが丘小学校における児童数と学級数について確認します。新木戸小学校は昨年度と比較しますと、71人増えました。割合で言いますと約7.5%増えています。全校児童は942人となりました。来年度は、1000人を超える見通しとなっております。

みどりが丘小学校は昨年度と比較しますと、児童数が100人以上増えており、割合で言いますと約9%増えております。全校児童数は、市内で最多の1168人となっております。また、市内の全児童数が1万166人とのことです。ので、市内の全児童数の10分の1以上が、このみどりが丘小学校の児童となる計算になります。みどりが丘小学校においては、八千代市学校適正配置検討委員会で設けている基準で考えると、学校の適正規模である上限の24学級、これを大きく超えており、1.5倍の36学級になっている状況であります。

緑が丘地区の小学校における課題としては、みどりが丘小学校の超過大規模化が挙げられます。本市ではこの課題に対応するために、副市長を長とした全庁横断的な組織として、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」を立ち上げ、対策の検討を進めているところです。この対応につきまして、緑が丘地区の小学校の課題については、ひとまず対応が整い、対策の手が打てた状況になっているとご理解いただいてよろしいものと考えております。

続きまして、高津地区の小学校です。今年度の現状から説明いたします。

西高津小学校は昨年度と比べると全校児童数は29人減っており、割合で言いますと、約8%減っています。学級規模は現在、適正規模に収まっています。

次に高津小学校ですが、昨年度と比べると全校児童数は37人減っており、割合で言いますと約9.5%減っています。学級数では、適正規模の下限ぎりぎりである12学級となっております。

最後に南高津小学校です。昨年度と比べると全校児童数は4名減っており、割合で言いますと2%ほど減っています。学級数で見ると、適正規模の下限を下回る10学級となっております。

次に、高津地区の今後の児童数の予測を小学校別に見ていきます。

まず西高津小学校は、来年度以降も減少傾向となっております。今年度の児童数と比較すると、6年後には21%減の294人とされております。

次の高津小学校ですが、こちらも毎年減少傾向となる見込みです。6年後には、今年度の児童数の4分の1以上が減り、28%減の279人となる見込みです。

最後に南高津小学校です。西高津小学校や高津小学校に比べると増減数ではあまり波がないものの、やはり6年後は減少することが予測されております。

以上、高津地区の小学校の現状と今後の状況の予測を見ていただきましたが、本地区の小学校における課題として、やはり何といたっても南高津小学校の過小規模化が挙げられます。このことについては、昨年度に実施された本委員会の場においても、当該地区の校長を務めている委員から、豊かな教育活動を行う上で、課題が生じ始めている可能性があるとの指摘がなされておりました。

また現在、学校適正規模の下限で踏みとどまっておりますが、児童数のさらなる減少が予測される高津小学校の小規模化、この2点が挙げられます。

しかし、これらの課題に対し、対応策はまだ議論されておられません。そこで本日委員の皆様には、今後の対応について協議いただければと存じます。なお、画面の資料になりますが、高津地区の小学校の配置と通学区域の状況になります。後程、協議いただく際の参考にしていただければと存じます。

委員長     それでは、高津地区の小学校について協議に移りたいと思いますが、今のご説明に対して何かご質問等はございますか。

今増えている緑が丘地区は、再来年度新たな分離新設校が設置されるということで、増えている地区については市として対応をいただいている状況であるということ。今日の議題は、減少している地域についてどうしたら

よいかというところで、皆さんのお知恵をお借りしたいという会議でございます。今、この場で意見と言っても、少し話しづらいですか。

委員 分譲等は高津地区で予定とかはあるのですか。八千代市で、例えば不動産会社から計画をしていますというような話は特にないのですか。

学務課長 現在、画面に映っております、黄色が高津小学区、緑色が南高津小学区、青色が西高津小学区と3つの高津地区の小学校が出ておりますが、私どもが現在把握している情報の中では、この3地区におきまして、大きなマンション等のことは情報としてもっておりません。

なお、西高津小学校につきましては、現在、八千代緑が丘駅そばの大型集合住宅がございますが、そちらのマンションの学区という形で設定をさせていただいております。通学支援車両を出して、そこに住んでいる子どもたちには、西高津小学校に来年度1年間は通っていただくというような設定になっておりますが、現在そのような形でそのマンションから通っている児童はおりません。来年度も現段階ではない見込みです。そのような状況となっております。

委員長 ありがとうございます。その他、ご質問等ございますか。

委員 あまり、このような政策とか施策に関しての知識がないのですが。例えば今だと少子高齢化というのは、日本全体で起こっている問題なのですが、他の市区町村で同様の事例が起きたとき、このような施策を行うといった事例はあるのでしょうか。事例がないと議論することが難しいなど。

学務課長 ご指摘ありがとうございます。皆様のお手元に本日資料2という、A4サイズで1枚のものがございますか。

こちらは、「八千代市立小中学校の学校適正配置の基本的な考え方について（答申）」という形で、一部抜粋ではあるのですが、本市が学校適正配置を考える上での基本的な考え方として過去に示されたものをお手元に用意しております。こちら裏面に注意書きがありますが、平成20年4月に答申した内容のものとなっております。現在もこの考え方に基づきながら、適正配置検討委員会の皆さんに市内の学校の適正規模を考えていただき、適正配置をお願いしているところがございます。

(1)の表を見ていただきまして、学校適正規模の基準条件についてということで1つ書いておりますが、先ほど資料の中のスライドにも出てきたもので八千代市の適正規模に基づきますと、本日皆様にお考えいただくものにつきましては、それぞれの小学校では非常に小さなサイズになってきているということが見ていただけたと思います。その適正規模の基準になっているものが、今見ていただいている資料(1)に書いてあるものになっています。

それから、裏面(2)の①、「よりよい教育環境の実現」というところがあ

りますが、改めて確認いたしますと、「学校適正配置は望ましい学校規模の中で教育活動が行われることを最優先の目的であると考え」とのこと。そのために、例えば「教育環境の整備や教育内容の充実を図ることができるようにするとともに、児童生徒の安全確保を重視する」。②も続けて読ませていただきますが、「地域コミュニティとしての役割。学校は地域社会と深く結びついており、地域に根差した特色ある学校づくりを推進していくことが大切である」、そしてそのあとの書かれているようなことが大事かと思うのですが、「学校適正配置を行うにあたっては、地域住民の心の拠り所や、伝統の継承、地域文化が創造される場と、地域コミュニティの拠点としての役割を考慮していくことが望まれる」、このようなことを過去に定めております。

ですから、本日皆様には今触れさせていただいたような辺りを基準にしながら、議論いただけるのがよいかと考えておりますがいかがでしょうか。

委員長 おそらく委員が尋ねたかったのは、この適正配置の基本的な考え方というのは、近隣の市町村も同様の考え方で学校適正配置というのをやっているのかどうかと、具体的にどのような対応をしているのかということですかね。

委員 そうですね。具体的にどのような対応をしているかということです。

学務課長 改めて補足させていただきます。

まず1つは、本市のこれまでの対応もそうなのですが、基本的に学区の変更をかけていく中で対応していくということがあります。

それから先行の例で申しますと、阿蘇米本地域がこれに当たるのですが、同じような状況で団地があります。団地の造成に伴って、多くの子どもたちが在籍していた時期があります。そしてそれぞれの小学校が1000人規模の学校だったということがあったのですが、現在は非常に小規模化して、どうにかせねばならないということで、過去におきまして阿蘇米本学園は統合というような形をとっております。

なお、阿蘇米本学園につきましては、義務教育学校という形で、単なる小学校の統合ではなく、小中学校を合わせるような議論がなされました。

本日、高津地区を考えていただくにおきましては、いろいろな話をいただけたと思うのですが、副市長を長とする「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」という非常に大きな委員会がありまして、現在、西八千代地区の小学校や中学校をどのようにするのかということについて、そちらの会議の方でも話し合われているところでございます。ですので、教育委員会で皆様をお願いをしている「学校適正配置検討委員会」は、ある意味同じような内容をこの部分では扱っていただくようなことになるのですが、私どもとしましては、本日議論いただいた結果等について、先ほど申し上げた「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」にも報告をしていくようなことも考えてお

りますので、本日忌憚のないご意見をいただきながら、皆様に協議いただけるとありがたいと思っていますところです。

委 員 ちなみに最小規模に関してはこちらに記載はないと思うのですが、何か最小の規模の基準等がありますか。

学務課長 スライドを見ていただきますと、一番下段に書いてありますが、八千代市におきましては小学校で 12 学級というのが 1 つの基準となっております。

その 12 学級という基準で見えていくと、表の右側の適正規模の○△×というのは、図式化したものですが、今はそのような状況でございます。

高津小学校につきましては、現在 12 学級。今後減っていくことも予想はされておりますので、適正規模の下限を下回っていくという状況が見通せているという形でございます。

委 員 はい、わかりました。

委員長 今、委員のご質問もありましたが、皆さんが身近に感じておられる状況から、高津地区における学校適正配置について、どのような対応をしたらよいかというのを周りの方と議論いただきたいと思います。スライドの地図を改めて見ていただくとわかりますが、団地を取り囲むような感じで、3 つの小学校が配置しているというのが高津地区の特徴でしょうか。

副委員長 高津地区の南高津小学校は、東高津中学校に通っている。ですから、高津中学校は近いけれども、東高津中学校に通学している。学区というものがすごく関係してくるような感じがするのですね。どこの子どもたちがどの中学校に行っているかというのがすごく影響してきていると感じます。

東高津中学校の至近に住んでいる子も、学区としては大和田中学校のため、距離のある大和田中学校に通っている。そして大和田西小学校の子供たちも自転車通学が禁止されている中で、大和田中学校に通っている。

道路事情で考えると、成田街道の交通量が多く、どうしてもネックになるところで、子どもたちの安全、これを大事に考えながらこの学区を見たときに、南高津小学校の子どもたちと高津小学校の一部の子どもは、東高津中学校に行っている。ですから、ここで規模だけを話すのではなく、学区というところの見直しも必要になってきているのではないのかなと。そうしないと結局は、規模が増えてきている中学校がある一方で、東高津中学校は減ってきていることもありますし、いろいろな意味で総合的に考えなければいけないと思います。子どもたちが減少傾向にあり、特に京成線沿線は増える見通しがないような感じであるので、今後、学区との関係というのも考えながら対応していくというのがあり、必要になってくるのではないかと思います。

私は以前学校に勤務しておりましたので学区は大体わかっていますが、今日参加されている方々は、地域の学区はよくご存知かと思いますが、八千代

市全体の学区に関してはなかなかご存じではない方もいると思いますので、その辺も含みながらの難しい議論があるかと思うので、これも1つ参考にして、こうなるとすごく幅が広がってしまうので難しい問題になると思います。これも課題の1つかなと思います。

委員長      ありがとうございます。それでは、どうしましょうか。

全体でこのようにご意見入れるというのは、自分から発言しにくいところもあるかと思うので、グループに分かれて、そこで率直にご意見を出していただいて、それを後で代表者に発表していただく形でいかがですか。

～各グループで協議～

委員長      それでは皆さん、いろんなご意見が出ているところではありますが、それぞれのグループから、どのようなご議論があり、どのようなご意見が出たかというのを共有させていただければと思います。

委員      実は少年野球のチームですが、以前は高津小と南高津小のそれぞれのチームがありましたが、すでに合併していると。少子化が進んでいてこれはもうチームを作るにはやむを得ないということであれば、高津小学校と南高津小学校を合併することによって、適正な人数にするという意見が出ました。

高津小学校と高津中学校は隣接しているものですから、少し離れた南高津小学校を新たな中学校にってしまう。これできるかどうかかわからないという前提ではありますが、そうすれば、高津中学校がこの先パンクしてしまいような数字ですので、それもカバーできるのではないかというような意見でした。

委員長      ありがとうございました。

空いた学校の利用方法までお考えいただくとは。

続いてお願いいたします。

委員      私たち4人のグループでも同じような協議をさせていただきました。

私はたまたま青色と黄色の上の学校にある新木戸小学校に勤めていますので、私たちの学校或いはみどりが丘小学校の大規模のような学校に比べると、南高津小学校がこれから単学級の学年が増えていくということになると、行事の関係や、今人間関係づくりがとても苦手な子どもたちが増えている中で、単学級となると、その人間関係がそのままずっと、もち上がっていつてしまう。そうではなく、クラス替えができるようなということを考えると、高津小学校と南高津小学校を統合していくのがよいのではないかと。

通学区域のことが先ほど出ましたが、通学区域審議会があるので、通学区域についてはそちらで議論していただく形が良いのではないかと思います。

同じようにこちらのグループでは、高津小学校と高津中学校が近いから、高津小学校を高津中学校の用地にするという意見がありました。委員さんの中に、緑が丘西にお住まいの方がおりまして、そうしたときにやはり緑が丘

西から高津中学校は遠いですよね。ですので、中学校のことについてはまた別の議論があるのですが、その辺も含めて、これから少し検討したらよいのではないかとということで、私たちも高津小学校、南小学校を少し考えていったらよいのではないかとということで議論しました。

委員長      ありがとうございます。

では、最後のグループお願いいたします。

委員      皆さんと同じような意見になっていますが、1つにしたほうがよいのではないかと等いろいろと意見が出ましたが、西高津小学校と高津小学校に南高津小学校を縦割りにして、半分ずつに入れていくのはどうかという案が出ました。そのようにすると、西高津小学校も高津小学校も人数が増えるのではないかとということでした。こちらのグループでは、空いた小学校の用地を中学校に充てるという考えは出なかったもので、他のグループの話を伺って、そのような考えもあるのだなと感じました。ただ阿蘇米本学園のように小中学校を1つにするというような学区編成ではない方向で考えがまとまりました。

委員長      ありがとうございました。

学校適正規模というのは、子どもたちにとって大事だという話もありましたが、私は教員養成の大学にありますが、実は教員にとっても大事で、1学年に1つの学級しかないと、授業の相談をする人がいない状況になり、若い教員が増えている中で学校の適正規模は先生にとっても大切なことだと付け加えさせていただきます。

皆さん、ご議論いただきありがとうございました。

次に、中学校について事務局説明をお願いします。

学務課員      続きまして中学校になります。こちらは高津地区の中学校の生徒数と学級数の現状になります。令和6年5月時点で、高津中学校は市内で最も生徒数の多い中学校となっており、現在学校適正規模を超えています。

東高津中学校は現在、学級数で見ると8学級ということで、学校適正規模の範囲内です。

ちなみに、高津・緑が丘地域の小学生の進学先としては、高津中学校へは新木戸小学校、西高津小学校、みどりが丘小学校の一部の児童、高津小学校の一部の児童が進学します。一方、東高津中学校へは、南高津小学校と高津小学校の一部の児童が進学するというような状況になっています。

次に、今後の高津地区の中学校の生徒数の今後の予測になります。

まず、高津中学校ですが、来年度以降も生徒数は増加し、6年後には今年度の生徒数の約1.4倍に増える見込みになります。

次に東高津中学校ですが、来年度以降も生徒数は減少し、6年後には今年度の生徒数から18%ほど少なくなる見込みになります。

高津地区の中学校における課題ですが、高津中学校の大規模化が挙げられ、住民基本台帳に基づく当該中学校の学区に実際に居住する子どもたちたちの数で今後を見通すと、令和 11 年度には高津中学校の保有教室数を超える見込みとなっています。

この問題に係る対応としては、先ほど小学校のところで触れました、副市長を長とする全庁横断的な組織である、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で現在も検討をしています。

対応としては、昨年 5 月に「西八千代地区中学校対策の方向性」という形で、今後の進め方が決まっています。中学校対策についてはまだ決定しておらず、方向性という形で示された状況となっています。現在も「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で協議が続けられていますが、具体的な対策の決定は現段階では、本年 3 月までに定めることに努めるとしています。

そこで、本来であれば本日も本委員会の場において、高津地区の中学校の適正配置についてご協議いただきたいところではありますが、ご説明した通り、西八千代地区の中学校対策の方針はまだ定まっていません。高津地区の中学校において、高津中学校の過大規模化はもちろん、昨年度の本委員会でも挙げられていました、東高津中学校の小規模化による、学校運営上の支障が出始めている可能性があるとの指摘を受けたことへの対応については、なるべく早く議論していく必要があると考えています。

以上のことから、当該地域の中学校の適正配置については、「西八千代地区小中学校等対策検討委員会」で、中学校対策の方針決定がなされた後に、本委員会でご協議いただくということにさせてもらえればと存じます。

東高津中学校で生じている可能性がある課題については、やはり当該の関係者から情報を得るなどの作業も必要と考えていますので、協議を進めていくために必要となる準備も踏まえた上で計画を作成し、次年度の本委員会の開催に備えていくようにします。

委員長      ありがとうございます。

ただいま、高津・緑が丘地域の中学校についてご説明いただきましたが、この会議での議論は、来年度以降というお話ありましたが、具体的なお話をいただきましたので、せっかくの機会ですから何かご質問等があれば、事務局に可能な限りお答えいただければと思うのですがいかがでしょうか。

委員      緑が丘西の人たちは確か自転車通学は駄目なのですね。一部の方たちは、許可が出ているような話を聞いたのですが、基準として許可が出ている所と出ていない所の境界がよくわからないので、ご説明いただけますか。

学務課員      高津中学校で自転車通学の許可がされている地区は、緑が丘西 5 丁目 7 番地から緑が丘西 8 丁目に居住している方が対象になっています。

こちらについては、本来は睦中学校の学区なのですが、許可学区と設定されていまして、申請をすれば高津中学校へ通学ができるという地区になります。ですので、本来睦中学区なのですが、高津中学校に通うというところで、学校で自転車通学を許可している地区があるということになります。それ以外の本来の高津中学校の地区については、徒歩での通学となります。

委員長       なかなか難しい状況ですね。

委員       5丁目と4丁目の違いだけで通学時間が20分ぐらい違うので、緑が丘西にお住まいの親御さんの話を聞くと、子どもがつらそうだなと。

委員長       どこかで線を引かねばならないのが学区だと思うのですが、少年野球や少年サッカーの場で、学区の違う子たちが集まってくると、お互いの情報交換の中でいろいろなことが出てくるのでしょうか。

その他いかがですか。

では、私からいいですか。私、県立高校にいたこともあるので、「県立高校等の活用」という文言が入っているのですが、これは具体的にどこを考えているのでしょうか。

学務課長       画面にあります既存施設の活用を基本とするということで、現在中学校対策の方向性が決まっているところです。「既存施設」とは2つありまして、「市立小中学校」か「県立高校等」となります。現在県立高校等に係る質問をいただきましたが、これについては、千葉県教育委員会で高校改革に係る推進プランというのを定めていて、そこでの発表によると、今回のタイミングで、10校ほど県内で統合等を行って、県内の高校の数を調整していくというようなことが発表されています。

そして、当該地区にある県立高校というのは皆様ご承知の通り、千葉県立八千代西高等学校なのですが、そちらの学校につきましても、その対象となりながら準備が進められているということです。どのような結果になるかは、千葉県教育委員会が議論をまとめて発表していくということになっております。それがいつになるのかということはまだ定かではないのですが、その議論を踏まえつつ、私どもとしましても、活用ができるのかできないのかについては、仮に統合等によって校舎が空くようなことがあれば、案としてそちらの方を検討していくというような状況です。

委員長       ありがとうございます。

先ほど、後ろの方のグループで小学校を中学校にという動きもありましたが、やはり小学校の教室は中学生にとっては狭いですよね。そんなことも少し考えているのですが皆さんどうですか。中学校の状況について、高津・緑が丘地区のご説明についてのご質問等あれば。来年度以降だという話がありますから、さらに状況が色々と変わってくる可能性もありますが、今の状態

で何かありますか。

学校をどのようにするかというのは難しいですね。本当に難しいことを、事務局の方々も本当にご苦勞様でございますが、ちょうど1時間たちましたが、今日皆さんと議論しなければならない内容は以上でよろしいですかね。

委 員 ここに書かれている県立高校というのはどの既存施設のことですか。

例えば八千代西高校であれば、聞くところによると今減少気味であるとか、募集しても入ってこないとか、どちらかというときより幾らか緑が丘に近いと。だからそれを何とか改善する余地はないのかと。

ただ県立高校であって、八千代市のものではないから。

委 員 長 そうですね。ですから、先ほどの学務課長さんのご説明のような、県の動きが決まらないと、中止としてもなかなかというところだと思います。

他にはよろしいですか。それでは今日の議題に関しては、以上、本当にいろんなご意見をちょうだいして、よい会になったかなと思うのですが、事務局からその他で何かございますか。

学務課員 令和5年の3月から、約2年に渡り八千代市学校適正配置検討委員会として、委員長をはじめ委員の皆様にはご尽力いただきまして、大変ありがとうございました。

令和7年の3月をもって委員長及び委員の皆様の任期が満了となります。また次年度の八千代市学校適正配置検討委員会としましては、複数回の開催を予定しております。改めて委員長や委員については、選考等をさせていただき、ご協力いただくこともあると思いますので、その際にはお力添えをいただければと存じます。本当にありがとうございました。

委 員 長 それでは以上で、6年度第1回、八千代市学校適正配置検討会を終了させていただきます。

本当に皆さん、今日はありがとうございました。